

知っていますか？勉強にまつわる今と昔

ご家庭でお子さんやお孫さんの勉強を見ていて、「今はこうなっているのか」とか「昔とずいぶん違うなあ」と思ったことはありませんか？

今回はそんな勉強にまつわる変化をご紹介します。

【変化①】通知表は「絶対評価」

平成14（2002）年ごろから、通知表はそれまでの相対評価から絶対評価に変わっています。例えば相対評価では通知表の1～5で割合が決まっていた。しかし、絶対評価では割合が決まっていないため、極端に言えば全員に5をつけることも可能になりました。

その結果、昔に比べて1をとる子の割合が減り、5をとる子の割合が増えました。
また、3をとる子の成績の幅が広くなり、一概に3だから「普通・真ん中」と言い切れない状況になりました。

【変化②】高校の倍率低下と「大学全入時代」

高校入試の倍率は現在定員割れが多くなっています。昨年度の一般入試倍率は深川東（総合ビジネス:0.6、生産科学:0.2）、深川西（0.7）、滝川（普通:1.1、理数:0.9）となっています。倍率が低いことが意味するのは、簡単に入学できることではなく、入学者内の学力の幅が大きくなっているということです。

つまり、ある高校に入ったら、その先の進路が決まるということはいづらくなり
りました。（各高校のホームページに進路状況が載っていますので、ご覧下さい。）

さらに「大学全入時代」（総進学希望者数＜総定員数）という言葉も取りざたされています。単に学歴として「大学に入ること」の意義は失われつつあります。

【変化③】教育は「個」の時代へ

昔は1クラスにたくさんの生徒がいて、賑やかなものでしたが、少子化の影響もあり、1学級あたりの定員は減少傾向にあります。しかし、ニュースで報じられているように教員不足が問題になっています。

また同時に「個」や「多様性」の重視から、「個人の理解」により高い関心が向けられていると言えます。これからの教育はどうなっていくのでしょうか？

【大事なのは最新の情報にアンテナを張ること】

勉強や教育を取り巻く状況は日々変化していています。保護者の皆さんはその情報に敏感になる必要があります。AIやロボットの台頭、定年制度や終身雇用制度の見直しを始めとした社会情勢の変化も勉強や教育の持つ意味合いに深く影響しています。この機会に一度ご家庭でお子さんの勉強や進路について話し合ってみてはいかがでしょうか。



お問い合わせ…沼田町教育委員会教育課（電話35-2132）

○教育委員会「ブログ」随時更新中○ URL: <https://blog.canpan.info/numakyoui/>

